

運営会議(旧 まちの課題整理プロジェクトチーム)における  
課題整理状況  
(第34回 全体会 資料)  
2020/5/15

分冊③

【重複障がいに関するプロジェクトチーム】

※課題No. 下の ( ) 内は課題提出年度

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ ○○が○○ ○○という事例</p>	<p>○○という課題がある ○○が必要</p>
7 (H24)	<p>重複障がい（肢体不自由・知的障がい）をもつ方の通所先や入居先がなかなか見つからない。（東区7）</p>	<p>●障がい者施設・事業所のバリアフリー化を推進する。 ●現行の障害程度区分認定のしくみを見直す。 ●障がい程度区分認定調査員のスキルアップを図る。</p>
27 (H25)	<p>養護学校高等部。身障手帳1級、療育手帳A判定、夜間は呼吸が浅くなるので見守り必要。両親と兄と暮らす。父親は多忙。母親が入院中。兄が時間を作って本人の面倒を見たり、父親も仕事を抜けて面倒を見たりしているが、平日1週間など同じ事業所でロングショートさせてもらえる受け入れ先が自宅や学校近くで無い。（身体障がいがある児童を受け入れてもらえるショート先も少ない）医療型ショートは医療型の対象ではないと報酬単価が低いために現実的にはなかなか受け入れてもらえない。（相談9）</p>	<p>●重心判定や療養介護が付いていないが、状態像はそれに近い人のショートステイ受け入れ先が少ない。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p><b>【課題整理済】</b> 第6回まちの課題整理プロジェクトチームにて、重度の方を受け入れている事業所の調査や生活介護事業所等への聞き取り調査の必要性、重心を守る会による広報活動等を協議会を通じて広める等の話題が出た結果、第7回にて、札幌地区重症心身障害児(者)を守る会の太田副会長に話を聞く。まちの課題整理プロジェクトチームとしての見解は別添のとおり。</p> <p>⇒重複障がいに関する課題の整理に係る有期プロジェクトを立ち上げて、現在上がっている課題から優先的に整理していく ⇒重複障がいに関するプロジェクトチームを設置</p> <p>※児童に関しては、平成30年度より、医療的ケア児とその家族を地域で支えられるようにするため、関係者による地域の課題や対応策について継続的に意見交換や情報共有を図ることを目的に、「札幌市医療的ケア児支援検討会」を設置。一部の課題については、この会議でも検討が行われる。事務局は自立支援協議会 子ども部会となっており、相談支援部会、子ども部会、重複障がいに関するプロジェクトチームから委員として参加している。</p>	<p><b>【東区との意見交換結果】</b> (ひがしくとのいけんこうかんけい) ・重心の方も(地域生活を?)求めている。社会人としてどう成長していくのか?ということを考えている。 ・障がいの重い人の大人モデルにシンポジストとなってもらい、話をしてもらうことも有効ではないか。地域にたくさんおり、資源として活用して、協議会としても伝えていく。</p> <p><b>【参考】</b> ・平成30年度報酬改訂により、福祉型強化短期入所サービス費等を創設。</p> <p><b>【重複障がいに関するプロジェクトチームについて】</b> ・2019年9月に一旦終了。課題の継続的な検討が必要なため、その後の課題検討の場についてワーキングチームを設置し、整理・検討中。</p>	<p>主：身体と知的の重複障害</p>
<p><b>【課題整理済】 7の見解と同じ</b></p>	<p><b>【重複障がいに関するプロジェクトチームについて】</b> ・2019年9月に一旦終了。課題の継続的な検討が必要なため、その後の課題検討の場についてワーキングチームを設置し、整理・検討中。</p>	<p>主：身体と知的の重複障害</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
28 (H25)	<p>身体・知的の重複障がいがある方がケアホームを探している。南北線を利用して就労継続B型の事業所に通所している。足腰の安定が悪く、歩行時に転びやすいことから、駅までの道のりが安全なところを希望しているが、既存のケアホームには空きがないか、条件が悪くて安全を確保できない。(相談10)</p>	<p>ケアホームが不足していることと、利便性の良い場所がない。</p>
44 (H26)	<p>夜中の介護が頻繁に必要で、今まで寄宿舎を週3回利用して親の静養を確保してきた。親としては、在宅で介護していきたいと考えているものの睡眠が確保できる手立てが見通せないでいる。在宅サービスで、夜中のケアを利用できる家の構造ではなく、改修も困難。親と本人が、在宅生活を維持できる重心の事業所が不足している。(相談13)</p>	<p>重心の方が定期的に利用できる短期入所が少ない。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】7の見解と同じ</p>	<p><b>【重複障がいに関するプロジェクトチームについて】</b>                  ・2019年9月に一旦終了。課題の継続的が検討                  は必要なため、その後の課題検討の場について                  ワーキングチームを設置し、整理・検討中。</p>	<p>主：身体と知的重複障害</p>
<p>【課題整理済】7の見解と同じ</p>	<p><b>【重複障がいに関するプロジェクトチームについて】</b>                  ・2019年9月に一旦終了。課題の継続的な検討                  が必要なため、その後の課題検討の場について                  ワーキングチームを設置し、整理・検討中。</p>	<p>主：身体と知的重複障害</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
52 (H26)	<p>0歳。人工呼吸器も24時間装着。退院後自宅で両親との生活を送る予定だが、知的発達レベルで重心の判定がつかないため、医療型の短期入所、デイサービスが利用できない状況。 状態像としては人工呼吸器もつけているため、福祉型の利用は現実的には無理であり、結局母親が訪看やヘルパーと支えなければならぬ状況。3歳未満でもあり、ヘルパーの時間数決定についても十分に母親を手助けできるだけの時間数がつきづらい(最終的には区役所、本庁で協議してもらってかなりの時間数を決定してもらったが苦肉の策)。 この他数件の事例が散見される。(相談21)</p>	<p>医療型短期入所や医療型デイサービスの利用が必要 な状態像だが、重心判定がつかないために利用できない。</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】7の見解と同じ</p>	<p>※児童に関しては、平成30年度より、医療的ケア児とその家族を地域で支えられるようにするため、関係者による地域の課題や対応策について継続的に意見交換や情報共有を図ることを目的に、「札幌市医療的ケア児支援検討会」を設置。一部の課題については、この会議でも検討が行われる。事務局は自立支援協議会 子ども部会となっており、相談支援部会、子ども部会、重複障がいに関するプロジェクトチームから委員として参加している。</p> <p><b>【参考】</b> 平成31年3月 検討会にて「医療的ケアを必要とする子どもに関する調査」が実施され、報告書が作成されている。</p>	<p>主：身体と知的重複障害</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ ○○が○○ ○○という事例</p>	<p>○○という課題がある ○○が必要</p>
73 (H27)	<p>医療行為が必要な方の日中活動や短期入所等の利用出来る施設が少ない。 ※家族の側からも本人に病識がないと在宅酸素の取り扱いや胃ろうをいじってしまったたり目が離せない。</p> <p><b>【現状の対処】</b> ・母子世帯等は母の入院に合わせて本人も同じ病院に入院 ・在宅で家族やヘルパーの介助で生活しており外に出かけたりすることは諦めている ・病識の無い方で睡眠中に取れたままにしてしまう方は母が夜は起きて付き添っている。</p> <p><b>【意見】</b> ・看護師が配置されている事業所や対応できる事業所の情報共有が必要。 ・事業所が医療ケアを受ける心理的な抵抗感をなくするための研修が必要。 ・施設側の無理と思う気持ち（食わず嫌い？） ・気軽に相談できる仕組みづくりが必要 ・看護的な知識がないなかで入ってきている ・研修の充実→学びの場が必要 ・訪問看護の制度の壁→自宅だけではなく、日中活動先（短期入所）での訪問看護を認めることはできないのか（清田区）</p>	<p><b>【課題】</b> 医療ケアを必要とする方を受け入れてくれる事業所が少ない。</p> <p><b>【取組提案】</b> ・日中活動先での訪問看護の利用不可等の制度の壁を検討する ・札幌市として医療行為についての研修会の実施（情報提供から実践報告まで幅広く）</p>



<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】7の見解と同じ</p>	<p>【参考】 ・北海道の事業である「医療的ケア児等コーディネーター養成研修会」への積極的参加を札幌市からの情報提供して積極的な受講を促している状況がある。</p> <p><u>【重複障がいに関するプロジェクトチームについて】</u> ・2019年9月に一旦終了。課題の継続的な検討が必要なため、その後の課題検討の場についてワーキングチームを設置し、整理・検討中。</p>	<p>主：身体と知的重複障害</p>

No. (年度)	事例、問題提起、困りごと	課題
例	<p>誰が何を困っているのか？ 〇〇が〇〇 〇〇という事例</p>	<p>〇〇という課題がある 〇〇が必要</p>
60 (H26)	<p>①相談支援を利用する意義は理解できるが、実際には今すぐ利用するには距離がある ②一つは、日常障がい重い故に家族(実際には母親)以外に本人を理解できる人がいないと感じている ③もうひとつは、実際に相談支援を利用した場合も相談員に理解してもらっていると感ずられることが少ない ④結果、相談支援を利用しなくなっていく ⑤相談支援事業所相談員に感じる理解不足等は、ヘルパー、日中活動などの支援の他、訪問看護や保健師の中にも存在し、それらの結果、重症心身障がい児・者が利用できる資源は非常に限られているのが実情である ⑥その他のことを含め、結果として母親がほとんど全てを担っており、様々なことを母親一人で決めなくてはならない状況にある ⑦母親は一生懸命我が子のケア等していくが、加齢等でそれが難しくなると本人の思いはバサツと切るしかなくなる ⑧これらは本人が医療、医療的ケアが必要であるほど際立っていく ⑨特に年齢が小さい場合、地域に「安心できる材料」が少なく、NICU等から在宅に戻る家族の不安は極めて大きい、そこに届く支援は極めて少ない(相談28)</p>	<p>在宅重症心身障がい児・者の支援体制の構築</p>

<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)としての見解</p>	<p>結果</p>	<p>カテゴリ</p>
<p>誰が何をいつどのように</p>	<p>運営会議(旧まちの課題整理プロジェクトチーム)の見解を受けた結果、〇〇部会による結果や協議会での議論の結果などを記載し、全体で共有する。</p>	
<p>【課題整理済】7の見解と同じ</p>	<p><b>【重複障がいに関するプロジェクトチームについて】</b>  <b>・2019年9月に一旦終了。課題の継続的な検討が必要のため、その後の課題検討の場についてワーキングチームを設置し、整理・検討中。</b>   <b>・重症心身障がい児に関しては、子ども部会、札幌市医療的ケア児支援検討会へ課題を引継。</b></p>	<p>主：支援技術・障害特性 副：身体と知的の重複障害</p>